

音楽科

箏の指導に関する一考察（2年次）

—異学年交流・創作活動による箏二重奏『さらし』の題材開発—

泉谷正則

1 はじめに

我が国の学校音楽教育は、長い間、西洋音楽の仕組みやその美的な価値観を基礎に展開されてきた。しかしながら、近年、我が国の伝統的な音楽の良さを再認識し、学校音楽教育に取り入れようと、数多くの実践や研究が行われてきた。本研究で扱う「箏」は、静寂、音が響く空間、礼に始まり礼に終わる精神性、音の響きや音色に対する繊細さ、美しい姿勢や手の動きなどの点において、「箏」にしかない独自性を有するとともに、どの音楽にも通じる音楽の根源的な魅力を兼ね備えている。つまり、児童・生徒が「箏」のよさを感じ十分に演奏表現することができたなら、音楽に対する新しい価値観を芽生えさせるとともに、これまで親しんできた西洋音楽のみならず今後出会うであろうあらゆる音楽への理解を深めそれらを感じる心を豊かにすることにつながると思われる。

本研究は、昨年度の4・8年生における箏二重奏「さくらさくら」の題材開発の継続研究として、5・9年生における箏二重奏「さらし」の題材開発を行うものである。

2 単元の構想

本研究では、箏を中心として、次の2つの視点に立った題材開発を行う。

(1) 異学年交流の実施

5年生と9年生（中学校3年生）の異学年交流を取り入れることで児童・生徒の相互作用による学びの深化を図ることで、小中一貫教育におけるひとつの有効な学習形態を提案する。

(2) 発展的な活動として創作活動を取り入れる

創作活動を取り入れることで、それまで習得してきた基礎的音楽能力（音楽要素の知覚と感受）を生きて働く力にすることができるのか、また、他者とともに音楽を練りつくりあげていく問題解決的な学習過程によって、児童・生徒の意欲を高め音楽への価値観を変化させることができるのかについて検証する。

3 実践事例

(1) 題材

「箏の響き ～一緒に弾こう～」

(2) 題材実施学年及び人数

第9学年（中学校3年生）及び第5学年

第5学年2学級のうち、1学級は小学校教諭が指導し、1学級は筆者が指導を行った。本学園では今年度から、小中の音楽科教員による乗り入れを行っており、年間を通して、小学校教諭が7学年を担当し、中学校教諭が3・4・5学年の1学級を担当している。

(3) 題材について

本題材で扱う教材曲「さらし」は、箏の古典曲「さらし」をもとに編曲された二重奏の曲である。この曲では、一方のパートが「十九八九」という手（音形）を繰り返すのに対して、他のパートが様々な音形や奏法を重ね合せながら演奏される。また、即興的に演奏される部分もある。アンサンブルをすることを通して音形や奏法の変化や重なりによる箏二重奏の独特な曲想の変化を味わうことができるだけでなく、自分たちで部分的に創作をしてみることを通して既習内容を活かしながら

一人ひとりの想いや考えを音楽によって自己表現することができる題材であると考え。

5年生と9年生との合同班で、音形や奏法の変化やそれらの重なりによる箏二重奏の独特な曲想の変化を味わいながら創作やアンサンブルをすることを目標とする。「さらし」の特徴的な音形による旋律の感じや様々な奏法による音の響き、さらに、それらを重ねた時の響きや曲想の変化を感じさせることで、自分なりの想いをもって創作したり演奏したりできるようにする。また、昨年度の経験を活かしながら再び異学年が学び合う場を設定することで、他者とともに音楽を創っていくうえでの互いの課題や成長を感じながら学び合うことができるようにする。

(4) 題材の目標

「音形や奏法の変化、それらの重なりによる曲想の変化を味わいながら、創作やアンサンブルをすることができるようにする。」

(5) 題材の評価規準

① 音楽への関心・意欲・態度

パートの重なりによる箏の響きのおもしろさに関心を持ち、他者とともにそれを追究することに意欲をもって取り組むことができる。

② 音楽表現の創意工夫

音形や奏法、それらの重ね方について、曲想の変化を感じながら演奏したり、様々な方法を試すことでより自分たちの想いにそった音楽を創りあげることができる。

③ 音楽表現の技能

美しい姿勢や正しい奏法で演奏することができる。他のパートを聴きながら、美しいアンサンブルをすることができる。

④ 鑑賞の能力

箏独特の音の響きや表現の多様性を感じ取り、箏の音楽のよさを味わうことができる。

(6) 題材の実施計画

本単元は全8時間で実施する。実施計画は、以下の通りである。

① 第1次

箏の豊かな表現を感じよう（1時間）

② 第2次

箏曲「さらし」に取り組もう（3時間）

③ 第3次

箏の響きを一緒に味わおう（3時間）

④ 第4次

二重奏を創ろう（3時間）

⑤ 第5次

箏の発表会をしよう（1時間）

(7) 授業の実際（第2次 3時間目/3時間）

各学年で授業を進めてきて、初めてこの時間に異学年合同で授業を行う。一緒に箏の演奏を追求し、またお互いに高め合うことができるよう、9年生には教え方を考えさせ同学年のペアを5年生にみたててシュミレーションをさせてみたり、学年に関係なくアドバイスをすることの大切さアドバイスの視点となることを確認させたりといった事前の学習を経てから（事前授業のワークシー参照）、本時の授業を実施した。

① 目標

互いの音を聴き合いアドバイスを伝え合うことを通して、協力してアンサンブルをつくる。

② 学習課題への接近

この題材を通してどのような自分になりたいか「なりたい自分の姿」を交流しながら、本時の学習課題を自らの課題として意識させる。

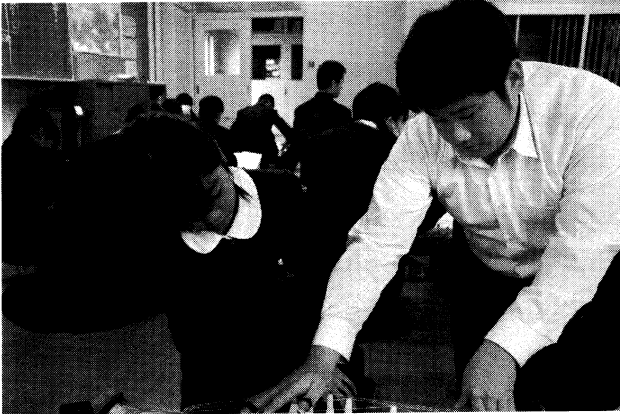
③ 学習課題の設定

5・9年生のペアで互いの演奏を聴き合いアドバイスをし合うにあたり、アドバイスの視点（姿勢、左手の使い方、右手薬指の支えなど）と、聴き方（手拍子で拍をとったり旋律を歌ったりしながら弾きやすいように援助する）を伝える。各学年で練習してきた6小節目までの旋律を5・9年生のペアで交互に演奏してお互いにアドバイスをする。

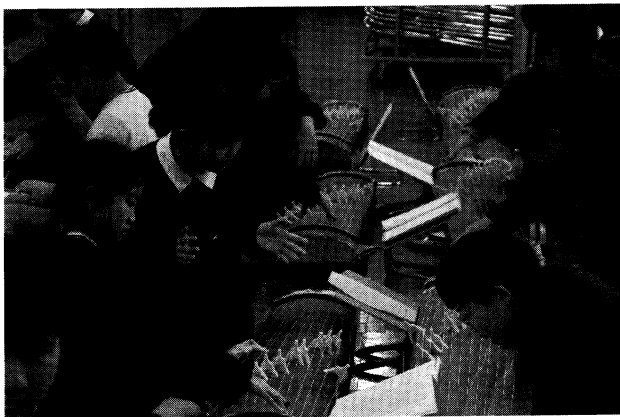
④ 学習課題の追求

7～9小節目を9年生が5年生に教える。そこで5年生のパートに新しくでてくるピッツィカート奏法について、「ボールが跳ね上がるように自然な手の動きで」「少し手首を内側にひねって弾く」「弱々しかったり、かすれたりしない、芯の

ある響き」など美しい手の動きや響きを言葉で伝えたりやってみせたりしながら教える。その後、2つのペアが一緒になり4名(5年生2人9年生2人のグループ)で箏の二重奏ができるように練習する。互いのパートをよく聴き合いながら、縦の線がそろおうようにしていく。この4名でのアンサンブルが本題材がゴールとする演奏形態である。



説明するだけでなくやってみせている姿



手拍子と歌で5年生の演奏を助ける様子

⑤ 本時のまとめと次時への課題

ペアワークシートにペアさんへのアドバイスを書いてまとめ、それをもとに、自らの振り返りをする。そして、全体で振り返りを交流して、本時の成果と課題を確認する。

⑥ ペアワークシートより

ペアワークシートから、「5年生から9年生へのアドバイス」「それを受けた9年生の振り返り」「9年生から5年生へのアドバイス」の記述が以下の通りである。本題材のねらいと繋がる内容を太字で示す。

【Aさん（5年）からBくん（9年）へ】

少しテンポがずれていたと思うので、そろえたらよいアンサンブルになると思います。

【Bくん（9年）の振り返り】

テンポがずれていたみたい。自分では分からないことだったので、周りの音を聴きつつもすっかり自分も弾いていきたい。

【Cさん（5年）からDくん（9年）へ】

とっても上手でした。音もよく出ていてきれいでした。失敗がぼろぼろあったので、もっと練習して失敗をなくしたら完璧です。

【Dくん（9年）の振り返り】

現実的なアドバイスをいただきました。確かにぼろぼろミスがあります。そこが直すところ。

【Eさん（5年）からFくん（9年）へ】

ピッツィカートがとても強く上手に弾けていたので良いと思います。たくさんアドバイスをもらったので、とても上手になりました。

【Fくん（9年）の振り返り】

だいぶ弾けるようになってきました。もっと練習を重ねて上手く教えられるようになりたいです。あともう少し、頑張るぞ！！

【Gさん（5年）からHくん（9年）へ】

ピッツィカートの響きが良いと思いました。また、スクイ爪でも、力強い音がでていてすごいと思います。リズムがずれないのですごいと思いました。

【Hくん（9年）の振り返り】

今の僕は5年生さんに負けていると思うので、これからも練習を頑張りたいです。5年生さんはすごいと書いてくれましたが、箏2のパートがまだまだなのでしっかり練習したいです。

【Iさん（9年）からJくん（5年）へ】

1つ1つの音がとても丁寧で良いと思います。姿勢も弾いている時にくずれなくて最後まで良い姿勢だったので良かったです。ピッツィカートをもっと大きく腕を動かしたらより良くなると思います。

【Kさん（9年）からLくん（5年）へ】

ゆっくりやったらできているところがあったからすごいと思うよ。いっしょに練習して少しでもできるところが増えたね。練習したらできるようになってるから頑張ってるね。

以上のように、「ピッツィカートやスクイ爪などの奏法」「テンポを合わせる」「相手の音を聴きながらアンサンブルをする」などの音楽的な高め合いや、「上手く教えられるようになりたい」とか「5年生さんに負けているので頑張りたい」といった意欲の高まりがみられた。9年生が必ずしも教える側というのではなく、5年生が1つ1つの音を大切に丁寧に感じながら表現している姿に9年生が刺激を受けたり、学年に関係なく相手の演奏をよく見て具体的にアドバイスをし合ったり、箏の経験のある5年生から9年生がしっかり教えてもらったりする姿があった。

(8) 授業の実際（第3次 2時間目/3時間）

5・9年生合同の3回目の授業である。パートの重なり方に気づき、互いのパートを聴き合いながら演奏したり、最後のリタルダンドの表現をどうするかを考えながら演奏するなど、箏二重奏『さらし』のアンサンブルを追求してまとめていく授業である。

① 目標

一緒に合わせて演奏することを通して、互いの箏の響きを聴き合いながら表現を創りあげていく。

② 学習課題への接近と設定

指導者が児童生徒に扮して、失敗や修正を繰り返しながらアンサンブルをつくりあげていく様子を実際にやって見せながら気づかせる。その際、ポイントとして、演奏し始めをどのようにそろえるか、この曲の特徴である音型の繰り返しや2つのパートの重なりを意識しながらどのように聴き合い演奏するか、最後のリタルダンドを4名のグループでどのように意識統一し表現していくか、を気づくことができるようにした。以上のポイントを学習課題としながら、4名のグループで練習

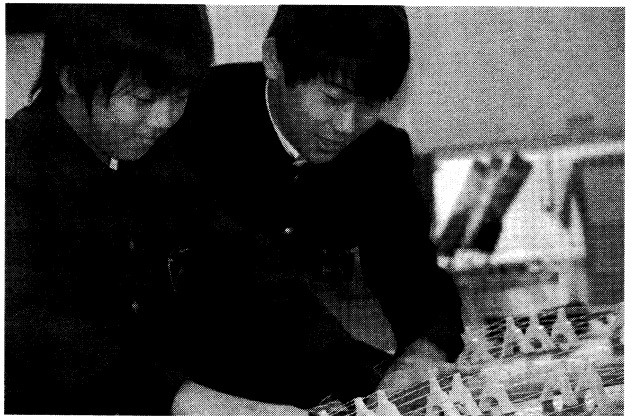
をする。その際、もう1つのグループは手拍子をしたり歌ったりアドバイスをしたりしながら演奏をしているグループを援助できるようにする。

① 学習課題の追求

2人ペアでの活動は活発にできていたが、4名の活動になると、コミュニケーションがさらに複雑になり、またそこに聴く側の4名の援助が加わるという学習形態となるため、指導者はこの活動の中で個人がどのように動いていくべきか様子を見てアドバイスをしていた。



5年生のそばにいて手拍子をする9年生



よりそいながら優しい雰囲気練習する姿



音に耳を澄ませながら合わせようとする姿

③ 本時のまとめと次時への課題

ペアワークシートにペアさんへのアドバイスを書いてまとめ、それをもとに、自らの振り返りをする。そして、全体で振り返りを交流して、本時の成果と課題を確認する。

④ ペアワークシートより

<p>【M（9年）くんからNくん（5年）へ】</p> <p>場所が分からなくて間違えていることがあったけど、音がはっきり出ていたよ。スクイ爪がとってもうまかったよ。</p>
<p>【Nくん（5年）の振り返り】</p> <p>今日は9年生さんにアドバイスをもらってうまくなったと思うのでよかったです。</p>
<p>【Oさん（9年）からPくん（5年）へ】</p> <p>少しずつれることがあったけど、ほぼかんぺきだと思います。休符のところを休めるともつといいよ。</p>
<p>【Pくん（5年）の振り返り】</p> <p>ちょっときんちょうしたかもしれないけど、自分の中での一番の力がだせたので、これから箏を弾く時はアドバイスしてもらったことに気をつけたいです。</p>
<p>【Qくん（5年）からRくん（9年）へ】</p> <p>リズムにのっている時はちゃんと弾けているけど、リズムにのれなかった時に少し速くなっているのをそこをなおしたらよくなると思う。</p>
<p>【Rくん（9年）の振り返り】</p> <p>また間違えたりとまどってしまうところがあります。Qくんからのアドバイスをもとにして改善していきたいです。</p>
<p>【Sさん（5年）からTさん（9年）へ】</p> <p>姿勢がよく音を強くだしているのが良いと思います。5年生と合わせる時に弾けなくなっています。最後から2行目の八のピッツィカートが終わった後が弾けていなかったです。あとはとても上手でした。</p>
<p>【Tさん（9年）の振り返り】</p>

1と2どちらのパートも楽譜を見ながら弾くことができたが、最後のほうがいつも止まってしまうので集中的に練習したい。5年生さんに教えるところは集中的に練習していたので止まらずに弾けるようになった。

【Uくん（5年）からVくん（9年）へ】

9年生さんとやって今までやってできなかったところも教えてくれて、できなかったところができるようになりました。ありがとうございました。

【Vくん（9年）の振り返り】

自分も楽しく弾くことができました。ペアさんもタイミングや座り方など、いろいろなことを教えることができたのでよかったです。今回の交流を次にいかしていきたいです。

9年の振り返りから

初めのころに比べてかなり上達することができたと思います。5年生からもたくさんのお話を学んだからだと思います。

緊張したと思いますが、9年生、5年生がお互いにお互いのことを思って箏が弾けたのでよかったです。

4人で合わせたけど、ほぼほぼ合っていた。合わせ爪らへんで自分がほんの少しずれているので、合わせ爪が完璧にできるようにしたいです。アンサンブルをした時に、自分が間違えてしまったこともあったけど、みんなが周りを見て全員で息を合わせて弾くことができたと思うのでよかったです。

休むところと最後の遅くするところを中心に合わせてみた。5年生さんと音を聴き合い、見合い、通せた。また、お互いの考えも共有できよりよいものへつなげられたので、これからにいかしていきたい。

4人で初めから終わりまで通してみても、途中から速いテンポになってしまうことが分かった。発表した2つのグループはお互いが音を聴き合い合わせながら落ち着いて演奏していたので、私たちのグループも参考にしたい。

4人で最初から最後まで合わせて弾くことはできなかつたけど、先生が9年生と5年生ですれるところをやってみせたところを自分たちの課題にしていたので、それを意識して取り組めた。

他のグループの9年生を見ていると、自分が間違えずに弾くことだけでいっぱいいっぱいにならず、5年生のミスも9年生が相手の音を聴いて合わせてフォローしていた。

今日のポイントは終わりと始まりを合わせるのと、相手を聴きながら弾くというので、自分たちのグループは特に練習をする時に終わりを相手を聴きながら練習しました。最後を合わせるのがこんなに難しいとは思いませんでしたが、相手の手を見合うことでそろろろということが改めて分かりました。

9年生だけでなく、5年生とも箏と一緒に演奏・練習したことで、5年生さんは1つ1つの音を大切にしているということが印象に残りました。

後輩である5年生さんと一緒に箏の演奏に取り組むことで、5年生さんの音を目で感じ耳で感じ、ポイントや良い点などを一緒に共有し共感することができたと思います。相手の演奏や姿勢などの良い点や改善点を見つけることはとても難しく、ちゃんと見たり聴いたりすることに集中しなければなりません。そして、改善する方法を5年生さんと考えることができたと思います。自分も5年生さんにアドバイスをもらったことをきちんと活用しようと努力しました。箏だけでなく、コミュニケーション力がついたと思います。

僕は5年生さんと一緒に箏を弾いて2つのことを学びました。1つ目は相手の事をよく見て、ペースを合わせることです。自分のペースで演奏してしまうとバラバラになり、良い演奏ができなくなるので気をつけました。2つ目はゆっくりとできないところをできるようにしていくということです。少しでも違うところがあったら、優しく注意してどうすればいいかを教える

ことを頑張りました。5年生さんと一緒に演奏することで、自分は先輩だから「ちゃんとしないといけない」という意識を高くして弾くことができたのでよかったです。

教えるということの難しさや、思った通りにやってくれるかという心配、コミュニケーションを積極的に行えるかなど、普段はあまり経験できないことが箏を通じてできた。アンサンブルをした時に、弾き終わった後の余韻を4人で聴くことが一番記憶に残っている心が躍ったことだった。

以上のように、4名の児童生徒によるアンサンブルの授業では、合わせることの難しさがわかるとともに、相手のことを考え相手の音を聴きながら一つの音楽を表現していくことのおもしろさを感じる事ができたようである。

4 おわりに

同学年の生徒とのペア以上に、5年生とのペアやグループでの活動を取り入れることで、教えるという立場、5年生に恥ずかしい姿は見せられないという意識から、自分の演奏を客観的に見つめ、より活動に意欲的に取り組もうとする意欲の高まりが見られた。また、5年生から教えてもらったり、音への繊細な感受性をもっている5年生の姿から学ぶことも多かったようである。さらに、音楽をする時に他者とどのようにかわるかということを経験した。今回のような異学年合同のアンサンブルといった学習形態からより意識して学ぶことができた。授業では「コミュニケーション」というキーワードで意識させたが、これはただ人間関係をつくるというような音楽と切り離された意味合いのものではなく、音楽の構造や表現の仕方や奏法などについて思いを交流しながら1つの音楽を追求し共有していくことであり、互いの音に耳を澄ませ互いを感じながら聴き合い演奏をする、つまり、音楽をすることそのものであるととらえたい。生徒の振り返りにもそのような学びの成果が多く記述されていた。